

卓球部で得たこと

村上市立神納中学校 3年 内山直紀

私は、中学校の卓球部に所属しています。私が卓球部に入ろうと思ったきっかけは、一年生のときの体験入部でした。そのとき実際にボールを打って楽しかったことと、上手な先輩方を見て、自分も卓球がしたい、先輩方のように上手になりたいと思ったことが理由です。入部した頃は、先輩方も強くて、緊張感のあるすごい部活だな、先生や先輩からいろいろのことを教えてもらって早く強くなりたいな。と思っていました。それ以来、私は一生懸命練習に励みました。

卓球部での活動を通して、私は学んだことが二つあります。まず一つ目は「仲間の大切さ」です。卓球部には四十人余りが所属していて、そのうち三年生は十六人です。この三年生たちとは、入部当初からずっと一緒に練習を重ねてきました。卓球は野球やバスケットボールのように、多くの人数で一つの試合に臨むわけではありません。そのため、個人競技のように感じられますが、私はそうは思いません。チームで協力して戦う団体戦がありますし、個人戦でも、決して一人ではありません。自分が試合をするコートには、アドバイザーといって一セットが終わるごとに、自分の問題点や良かった点、相手を攻略するための方法を教えてくれる人が一人来てくれます。それ以外にも応援席からの声援は大きな励みになります。

また、「県大会出場」のように、目指す目標を皆で意識するからこそ、団結も深まります。仲間がいることでライバル意識が高まり、良い刺激にもなります。私は二年生の時に、三年生からたくさんの技術を教わりました。私はもっと強くなりたいと思っていたので、三年生から教わったテクニックを武器に、ライバルでありチームメイトでもある、同じ学年の仲間たちに勝つことを考えて練習をし続けました。そこに、負けたくない仲間がいたからこそ、自分の技術を向上させることができたのです。仲間とは、団結を深め、また、良きライバルとして競い合うことで、互いを成長させることができる存在です。また、互いが競い合うことで、チーム全体を成長させることもできるのです。

卓球部での活動を通して学んだことの二つ目は「時間の大切さ」です。私は今までの練習で「今日はバックドライブができなかったから、明日練習しよう。」というように、「今日できなかったことを明日しよう。」と思ったことがたくさんありました。考えてみると、部活だけではなく普段の生活、例えば宿題を忘れたときなども同じように、「明日持ってくればいいや」と思ったことがあります。卓球部を引退した今、振り返ってみると、三年間はとても短い時間でした。「明日やろう」という怠けた精神のせいで無駄になってしまった時間がたくさんありました。どうしたら時間を有効に使えるのだろうか、この問題を解決するには、時間と向き合うだけでなく、自分と向き合わなくてははいけません。自分の怠け心に向き合い、勝つことが出来ていたら、時間を無駄にする事はありませんでした。部活を引退する前に、普段の生活の中でやらなくてはいけないことを忘れていたとき、時間を見つけて効率的に片づけることができます。だから、逃げずに自分と向き合い、時間を大切にすることは、生きる上で必要だと私は考えます。

最後に、私は卓球部に入って学んだことを、これからの生活に役立てていきたいと考えています。「仲間を大切にする」ことについては、「仲間」がいるからこそできることを今まで以上に意識し、互いに切磋琢磨できる友人関係を大切にしていきたいと思います。「時間を大切にする」ことについては、やらなくてはならないことを先延ばしにせず、すぐに取り組むことを心がけたいと思います。卓球部で得たことは、私の宝物です。